

地域におけるデザイン活用の促進

経済産業省デザイン政策室

デザイン政策の歩み

- 戦後、通商産業省・特許庁を中心に本格的なデザイン振興政策がスタート
- 近年は「デザイン経営」や「高度デザイン人材」等に関する施策を実施

「デザイン盗用防止」 & 「グッドデザインの啓蒙」					「感性価値×ブランディング」 「デザイン経営」		
1950年代	1960年代	1970年代	1980年代	1990年代	2000年代	2010年代	2020年代
・戦後復興 ・輸出振興 ・デザイン盗用問題 ・意匠／デザイン奨励審議会設置 ・Gマーク制度創設 ・通商局デザイン課創設 ・輸出品デザイン法制定	・いざなぎ景気 ・東京五輪 ・世界デザイン会議 ・貿易振興局検査デザイン課設置 ・日本デザイン団体協議会発足 ・日本産業デザイン振興会発足	・大阪万博 ・日本列島改造論 ・札幌冬季五輪 ・「成長の限界」 ・石油ショック ・'73 デザインイヤー ・「デザイン業」分類	・科学万博つくば ・バブル景気 ・物の豊かさ<心の豊かさ ・国際デザイン交流協会発足 ・貿易局検査デザイン行政室設置 ・'89 デザインイヤー	・東西冷戦終結 ・バブル崩壊 ・阪神・淡路大震災 ・長野冬期五輪 ・デザイン功労者表彰 ・産業政策局デザイン行政室設置 ・輸出品D法廃止 ・D奨励審議会廃止 ・Gマーク制度民営化	・「IT革命」 ・愛知万博 ・iPhone ・リーマンショック ・製造産業局デザイン政策チーム設置 ・感性価値創造イニシアティブ ・JAPANブランド ・キッズデザイン賞創設	・東日本大震災 ・クールジャパン戦略 ・地方創生 ・第四次産業革命 ・デザイン思考隆盛 ・商務情政策局クリエイティブ産業課設置 ・デザインイノベーション ・「デザイン経営」 ・「高度デザイン人材」	・デジタル庁 ・コロナ禍 ・東京五輪 ・大阪・関西万博
(デザインに関する審議会・法律)							
意匠奨励審議会 / デザイン奨励審議会 / 輸出検査及びデザイン奨励審議会							
輸出品デザイン法							
意匠法							
工芸指導所	産業工芸試験所	製品科学研究所					
工芸ニュース							

近代工芸・デザイン研究発祥の地・仙台

- 工芸の近代化・輸出振興を目的に、日本発の国立のデザイン研究指導機関「工芸指導所」を仙台に設置
(1928年)
- 海外の著名デザイナーを招聘し、最新デザイン動向を学ぶと共に日本に適したデザインを追求
(ブルーノ・タウト(独・建築家)、シャルロット・ペリアン(仏・インテリアデザイナー))
- 日本のデザイン界を牽引する多くの人物を輩出(剣持勇、豊口克平ら)
- 機関誌「工芸ニュース」を発行 = 我が国におけるデザイン誌の先駆け

商工省 工芸指導所

ブルーノ・タウト来訪記念写真。工芸指導所正面で撮影。



(出所) 産総研TODAY 2005-06

機関誌 工芸ニュース



(出所) 商工省 工芸指導所 工芸ニュース第1号(昭和7年)

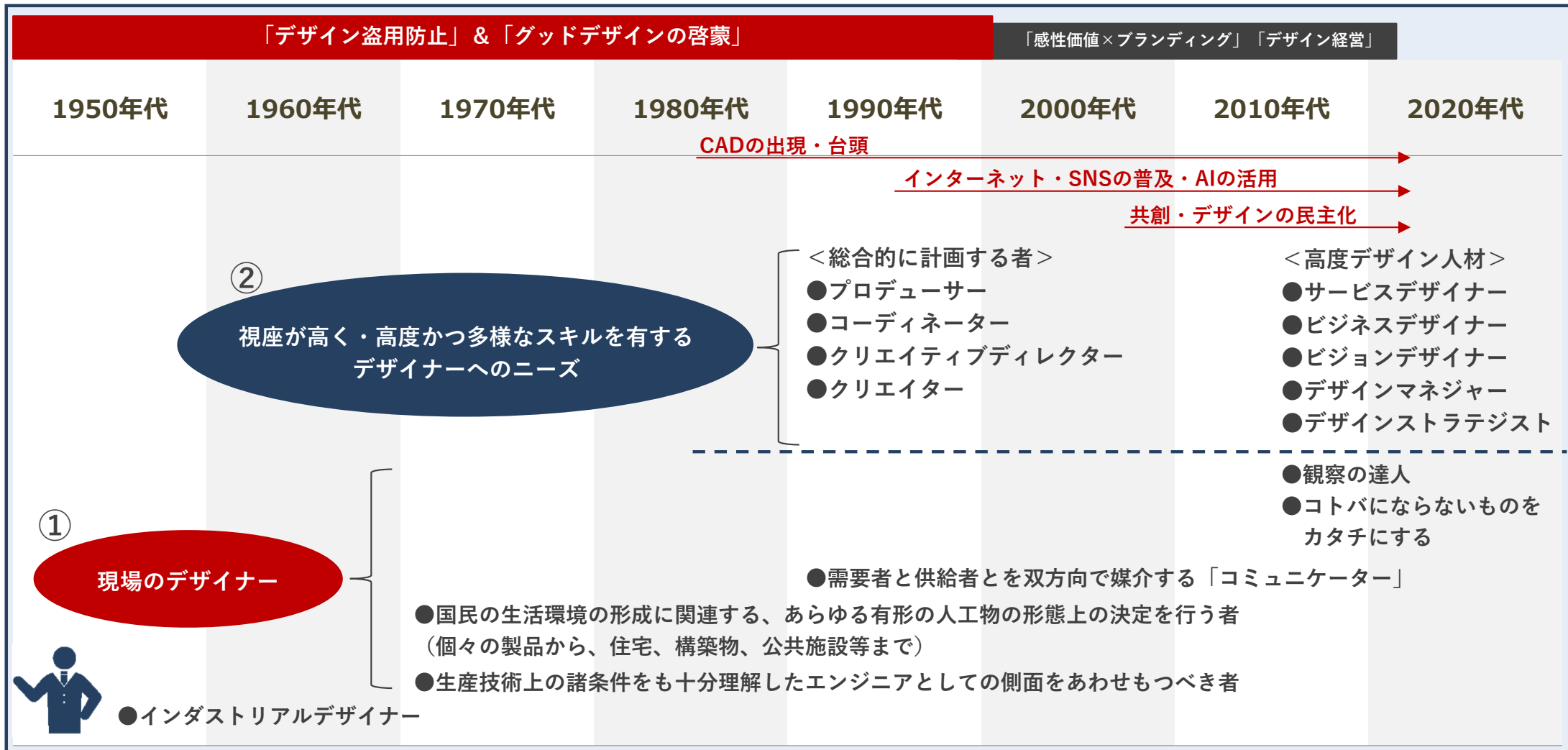
デザイン政策の目的・デザインの定義

- 日本のデザイン政策の目的は「産業振興・産業競争力の強化」が基本。
加えて、地域振興や市民生活の豊かさといった「文化的・精神的価値の創造」、
近年は「行政サービスの向上」といった目的を有する。



デザイン政策提言におけるデザイナーの定義

- デザインの対象領域は拡大・細分化
- CADやインターネットといった技術革新に合わせてデザイナーに求められるスキルも変化・拡大
- 現場で職人的に手を動かすデザイナーに加えて、高い視座をもつデザイン人材を希求



これからのデザイン政策を考える研究会（2023.1月～9月）

- 委員23名をはじめ、デザイン業界を中心に多くのオブザーバー・メディアの方にお集まり頂き、【開拓】【戦略】【資源】【人材】【地域】の各5テーマについて議論を実施

<これからのデザイン政策を考える研究会>

■ 日時

- 第1回 2023年1月19日 10:00-12:00
- 第2回 2023年2月13日 10:00-17:00
- 第3回 2023年3月23日 10:00-12:00
- 第4回 2023年9月6日 10:00-12:00

■ 参加者

委員：23名

オブザーバー：約120名

デザイン業界団体・地域のデザインセンター・公設試デザイン担当者、
省庁デザイン関係者等

メディア関係者 約10名

織研新聞社、AXIS、日経デザイン、デザインシップ、毎日新聞社、JDN
NewsPicks、マガジンハウス、WWDJAPAN、designing



論点別の主担当委員

- 5つの論点と、主担当の委員は以下のとおり

Design as Economy

太刀川英輔さん



開拓

社会の幅広い領域で
進化を生み出す

持続可能な社会・環境の未来を見据えて、産業支援中心のこれまでのデザイン政策を振り返り、これからのデザイン政策のあり方を多方面から検討する。企業経営から公共領域までデザインの力を幅広く活用し、創造性を喚起し、前向きな変革を導くあり方を考える。

田川欣哉さん



戦略

経営や戦略における
実践と連携

産業および文化における固有の蓄積を活かした「ジャパンデザイン」のリーダーシップ確立に向けた道筋を検討する。また、グローバルの潮流を正確に理解し、デザインの経営や政策における実践手法および国際連携を構想する人材や組織のあり方について検討する。

齋藤精一さん



資源

デザインの営みを顕在化し、
統合し、国内外に発信する

さまざまな地域と幅広い領域で蓄積されてきたデザインの営みを掘り起こし、統合し、ジャパンデザインの資源として歴史的・体系的に示す。その資源を活用し、国内外に発信していく体制を設計する。この循環により新たに生み出される文化的・社会的・産業的価値を描き出す。

Design as Culture

柴田文江さん



人材

デザインを活かす
教育と環境形成

社会のあらゆる側面でデザインの可能性を活かすには、その価値を理解し的確に活用できる人材の裾野を広げ、そのための環境を整えるデザインの民主化が必要である。同時に、日本のデザイン文化の求心力を高め、その進化に対応する高度デザイン人材の育成も引き続き求められる。

大西麻貴さん



地域

まちの未来を育む
デザインのあり方

地域に固有の風土や文化に目を向け、暮らしや産業を創造的に生み出し、あるいは編み直すコミュニティのあり方をデザインの視点から検討する。また、立場や経験を超えて有機的な相互作用を生み出す「場」のあり方を通じて、コミュニティの活力の維持・発展の可能性を追求する。

これからのデザイン政策を考える研究会（委員一覧）

浅沼 尚	デジタル庁デジタル監
石川 俊祐	デザインディレクター／KESIKI INC.パートナー
市川 文子	株式会社リ・パブリック共同代表
大西 麻貴	一級建築士事務所 大西麻貴＋百田有希/o+h共同主宰／横浜国立大学大学院Y-GSAプロフェッサーアーキテクト
加島 卓	東海大学文化社会学部広報メディア学科教授
上平 崇仁	専修大学ネットワーク情報学部教授
桐山 登士樹	富山県総合デザインセンター所長／富山県美術館副館長（デザイン・工芸担当）／株式会社TRUNKディレクター
倉森 京子	NHKエデュケーショナルプロデューサー／一般社団法人Design-DESIGN MUSEUM代表理事
齋藤 精一	パノラマティクス 主宰
佐宗 邦威	BIOTOPE代表
佐藤 卓	グラフィックデザイナー／TSDO代表取締役会長／公益社団法人日本グラフィックデザイン協会（JAGDA）会長
柴田 文江	DESIGN STUDIO S 代表
田川 欣哉	Takram Japan株式会社代表取締役／ロイヤル・カレッジ・オブ・アート名誉フェロー
太刀川 英輔	NOSIGNER代表／JIDA（公益社団法人日本インダストリアルデザイン協会）理事長
深野 弘行	公益社団法人日本デザイン振興会理事長
長澤 忠徳	武蔵野美術大学学長・教授佐宗 邦威
新山 直広	TSUGI代表・クリエイティブディレクター／一般社団法人SOE副理事／RENEWディレクター
服部 滋樹	graf代表／京都芸術大学教授
保坂 健二郎	滋賀県立美術館ディレクター（館長）
丸山 幸伸	株式会社日立製作所研究開発グループ／社会イノベーション共創センタ主管デザイン長Head of Design
水野 大二郎	京都工芸繊維大学教授
水野 祐	弁護士／Creative Commons Japan理事／Arts and Law理事
山田 遊	株式会社メソッド代表取締役・バイヤー
横山 いくこ	香港M＋デザイン＆建築部門リード・キュレーター

地 域 と デ ザ イ ン

【地域】におけるデザイン活用の先行事例

- 少子高齢化を起点とする様々な地域課題に対して、デザインの力でアプローチする事例が見られる（課題例：交通弱者の増加、空き家の増加、商店街の衰退、地域コミュニティの衰退等）
- 交流拠点等の施設を再整備するもの・イベント企画など、ハード～ソフトまで様々な事例

地域課題に挑むデザインの事例（徳島県 那賀郡 | 大分県 別府市）第1回 研究会 事務局資料より

“地域の子どもたちの未来のために”



「未来コンビニ」（徳島県那賀郡）

65歳以上が過半数を占め“限界集落”と呼ばれる地にできた施設。「子供のためのコンビニ」をテーマに、子供たちが様々な学びと経験に出会い成長できる場として建設。特産の柚子畑をイメージした立体トラス構造を特徴とする地域に誇りを持てる交流拠点をデザイン。併設されたカフェは地域のコミュニティスペースや観光客との交流拠点として機能。

出所：「日本空間デザイン賞2021 KUKAN OF THE YEAR」（日本空間デザイン賞事務局）
https://kukan.design/award/2021_b04_0325/

“誰もが自由に創造性を発揮できる、魅力ある地域へ”



地域再生のための活動 [BEPPU PROJECT]（大分県別府市）

バブルの崩壊と共に活気を失い、高齢化が進む温泉街をアートやクリエイティブの力で誰もが自由に創造性を発揮できる土壌をつくり、魅力ある地域としての再生を図る活動のデザイン。地域住民や観光客まで幅広い人が参加し、イベント企画・運営、ショップや宿泊施設などのハード整備・運営、商品開発、地域情報の発信などを展開。

出所：グッドデザイン賞2022 グッドフォーカス賞「地域社会デザイン」（日本デザイン振興会）
<https://www.g-mark.org/award/describe/54499?token=h0Z83QRLmT>

【地域】におけるデザイン活用の先行事例

- 地域の風土に根付いた、その土地ならではの魅力を再編集・発信する事例が見られる
- 地域のステークホルダーとの関係を基盤とした丁寧なリサーチをはじめ、既存の切り口とは異なる視点、優れた視覚表現など、デザイナーの能力を生かして地域の魅力を発信

地域を再編集するデザインの事例（東京都 銀座 | 北海道 道東地区）第1回 研究会 事務局資料より

“「新しい銀座の歩き方」を創る”



「銀座生態図」（資生堂×博展）

銀座を「生態」という視点で捉え、「前期：植物・生き物編」「中期：大地編」「後期：人の営み」という3つのパートで構成し、年間を通して発信。銀座の街を模した全72区画の棚と、その場所でのフィールドワークによって採取した植物/生物や土壌、さらには人の営みにまつわるものを素材にした作品によって構成されている。

出所：「新しい銀座の歩き方」を創ったウィンドウアート（株式会社博展）
<https://www.hakuten.co.jp/works/story/ginzaseitaizu>

“地域を思い活動する人たちをつなぐ”



道東のアンオフィシャルガイドブック「doto」（ドット道東）

『道東の暮らしの豊かさ』をコンセプトに、道東で暮らし、道東に根ざし活動し、誰よりも道東の魅力を知るクリエイターが『本当にオススメしたい道東の暮らし』を集め表現したガイドブック。クラウドファンディングで資金を調達し、1万部数を発行。

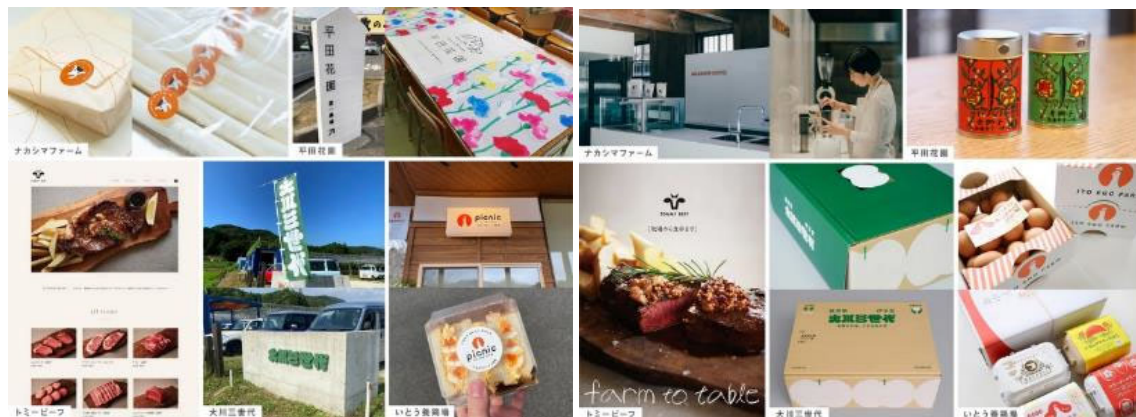
出所：道東のアンオフィシャルガイドブック「doto」（ドット道東）
<https://dotdoto.com/works/unofficial-guidebook-dotdoto/>

【地域】におけるデザイン活用の先行事例

- 地域の事業者とデザイナーが共創し、地域産品の魅力を磨き上げ販売まで繋げる事例
- ロゴマークや商品パッケージのデザインをはじめ、視覚表現に長けたデザイナーが主に貢献
- 事業者とデザイナーの共創自体は古くからある手法だが、両者の関係は比較的長期かつフラットに変化

地域産品の「磨き上げ」に資するデザインの事例（佐賀県 | 岩手県 西和賀町）第1回 研究会 事務局資料より

“農業の6次産業化へ” 農家×デザイナーの取組



農業分野におけるデザイン経営の導入 [さがアグリヒーローズ]

佐賀県による農業の6次産業化支援における事業。公募選定された5組の農家に対し、それぞれにクリエイティブチームを編成し、商品開発から広報計画、空間構成までをサポート。行政にありがちな単年度事業ではなく複数年事業とし長期にわたり支援。各組販売額は1,000万円を達成したほか、農家のデザインリテラシー向上にも寄与。

出所：グッドデザイン賞2022 ベスト100（日本デザイン振興会）
<https://www.g-mark.org/award/describe/54500?token=zX533KNb8W>

“豪雪を町の力に変える「ユキノチカラ」”



ユキノチカラプロジェクト（岩手県西和賀町）

2015年より町の主導により活動を開始し、地域ブランド「ユキノチカラ」を創設し、町内事業者と県内デザイナーによる商品づくりや、商談会展、販売イベント開催などの販促活動、SNSやメディアを活用した広報活動、ツアー開催など、多角的な情報発信を実施。2022年度からは町内の県立高校と協働した社会学習プログラムを開始。

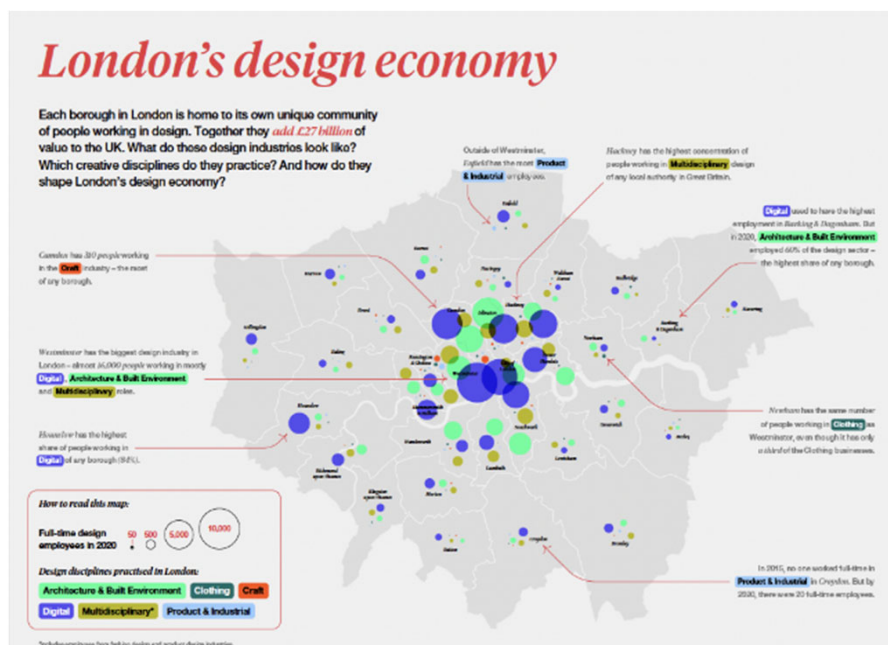
出所：ユキノチカラプロジェクトとは（ユキノチカラプロジェクト）
<https://yukino-chikara.com/about/>

【地域】におけるデザイン活用の先行事例

- 地域ならではの素材や技術、企業や人材を可視化し、地域コミュニティや産地を活性化させるデザインフェスティバルが一部地域で開催

デザインフェスティバルの事例（英国・旭川）第1回・第2回 研究会 事務局資料より

“地域の企業や工場、若手デザイナー等が市民に知られる機会に”



ロンドン デザインフェスティバル（英国）

現在世界ではデザインフェスティバルやデザインウィークが200の都市で開催されている。その先駆けとなったロンドンは2003年以来、毎年秋に開催。**2018年には60万人を集客し、地域に点在する企業や工場、教育機関、デザインスタジオなどが市民に広く知られる機会に。**

出所：第2回研究会 事務局資料より

“デザインの力で持続可能な地域社会の実現を目指す”



あさひかわデザインウィーク（北海道旭川市）

2019年、ユネスコのデザイン都市に認定された旭川市では、「**北の大地の「自然」や「人間」が持っている潜在力をデザインの力で引き出し、持続可能な地域社会の実現を目指すこと**」を目的に、市内各所でデザインに関する様々なイベントを開催。**2023年は8万人を集客。**

出所：第1回研究会 事務局資料より

いま地域には、インタウンデザイナーが必要

従来の政策・全国一律的な政策



複雑化する地域課題



少子高齢化

人口減少

価値観の変化

ライフスタイルの多様化 ...

デザイナーが日々デザインのプロセスの中で実践しているスキル

- ① 一見バラバラに見えるものを統合、再編集し、真の課題を抽出する
- ② 対象を注意深く観察し、ユーザー目線で問題を捉え直す
- ③ 試行錯誤する中で改善を重ね解像度を上げていく
- ④ 情報を美しく分かりやすく表現し、伝達する。

地域に加わることで、実情に沿ったより確度の高い解決手法を提示できる

都道府県別 デザイン業 事業所数

● 東京都と大阪府に約半数のデザイン事務所が集中

都道府県別 事業所数（経済産業省 特定サービス産業実態調査2018）

都道府県	事業所数	比率	都道府県	事業所数	比率	都道府県	事業所数	比率
北海道	214	2.9%	石川県	79	1.1%	岡山県	73	1.0%
青森県	26	0.4%	福井県	41	0.6%	広島県	92	1.3%
岩手県	31	0.4%	山梨県	29	0.4%	山口県	34	0.5%
宮城県	69	0.9%	長野県	108	1.5%	徳島県	23	0.3%
秋田県	43	0.6%	岐阜県	97	1.3%	香川県	43	0.6%
山形県	25	0.3%	静岡県	172	2.4%	愛媛県	48	0.7%
福島県	48	0.7%	愛知県	441	6.1%	高知県	14	0.2%
茨城県	55	0.8%	三重県	41	0.6%	福岡県	253	3.5%
栃木県	43	0.6%	滋賀県	25	0.3%	佐賀県	16	0.2%
群馬県	71	1.0%	京都府	187	2.6%	長崎県	21	0.3%
埼玉県	142	1.9%	大阪府	1,088	14.9%	熊本県	34	0.5%
千葉県	89	1.2%	兵庫県	202	2.8%	大分県	28	0.4%
東京都	2,608	35.8%	奈良県	23	0.3%	宮崎県	17	0.2%
神奈川県	346	4.7%	和歌山県	23	0.3%	鹿児島県	25	0.3%
新潟県	80	1.1%	鳥取県	24	0.3%	沖縄県	30	0.4%
富山県	55	0.8%	島根県	14	0.2%	計	7,289	100.0%

インハウス・フリーランス デザイナーの割合

● 我が国のデザイナーの約 4 分の 3 はインハウスデザイナー

インハウスデザイナー・フリーランスデザイナーの割合（総務省 国勢調査 2015年）

デザイナー：工業的若しくは商業的製品又はその他の物品・装飾に関し、用途・材質・製作法・形状・模様・色彩・配置・照明などについて、
技芸的又は趣味的な意匠を考案し、図上に設計・表現を行う専門的な仕事に従事するものをいう。
例）デザイナー、服飾デザイナー、商業デザイナー、インテリアデザイナー、フラワーデザイナー、グラフィック・デザイナー、図案家、建築装飾図案家、陶磁器デザイナー、友禅図案家、
ウェブデザイナー、工芸図案家、工業デザイナー、産業デザイナー、宣伝用図案家、機械デザイナー、自動車デザイナー

インハウスデザイナー

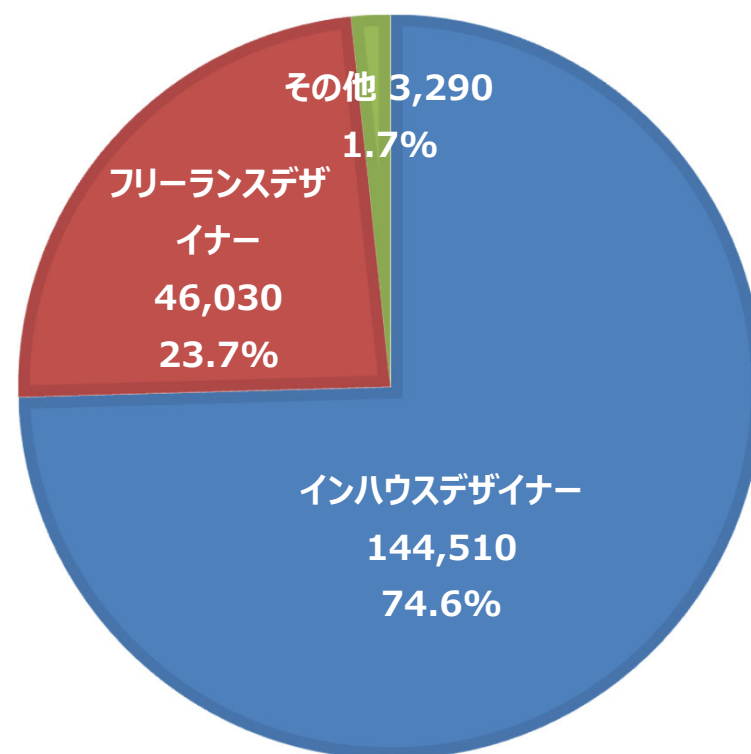
従業上の地位	デザイナー数	比率
雇用者_正規の職員・従業員	98,970	51.1%
雇用者_労働者派遣事業所の派遣社員	5,660	2.9%
雇用者_パート・アルバイト・その他	19,540	10.1%
役員	16,830	8.7%
雇人のある業主	3,510	1.8%

フリーランスデザイナー

従業上の地位	デザイナー数	比率
雇人のない業主	46,030	23.7%
家族従業者	2,460	1.3%
家庭内職者	0	0.0%

その他

従業上の地位	デザイナー数	比率
従業上の地位「不詳」	830	0.4%

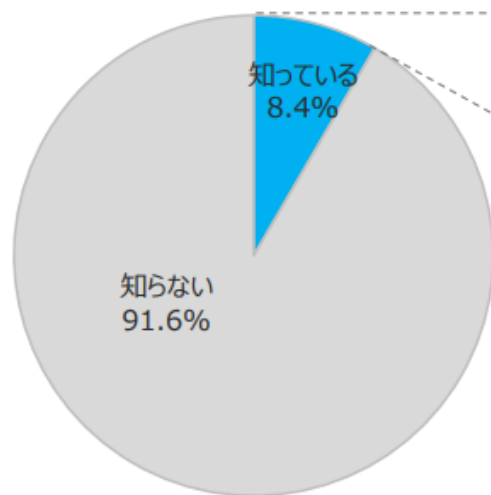


基礎自治体におけるデザイン思考の認知度

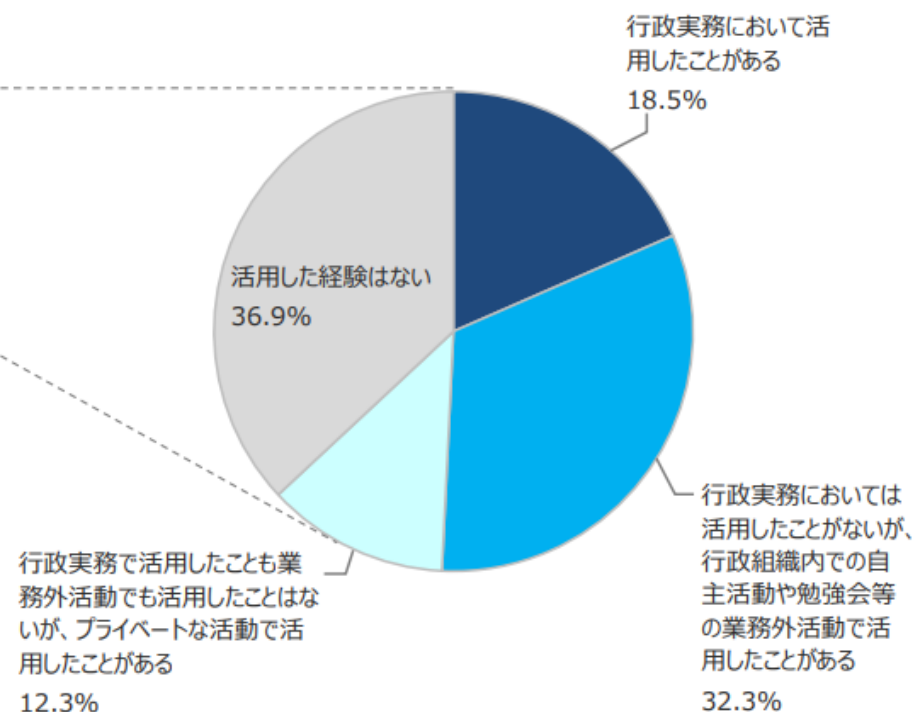
- 武蔵野美術大学と日本総合研究所が基礎自治体職員に対して2022年に実施したアンケート調査によると（有効回答数:1,545人）デザイン思考を知っている割合の人は8.4%にとどまる

基礎自治体職員におけるデザイン手法に関するアンケート調査（2022年7月 | 株式会社日本総合研究所・学校法人武蔵野美術大学）

あなたは、「デザイン思考」を知っていますか。
【単一回答（n=1,545）】



あなたは「デザイン思考」を活用した経験はありますか。あてはまるものを1つ選択してください。【単一回答（n=130）】



出所：基礎自治体職員におけるデザイン手法に関するアンケート調査（2022年7月 | 株式会社日本総合研究所・学校法人武蔵野美術大学）
p.11 基礎自治体におけるデザイン手法の導入度・実践度合い①より
https://www.jri.co.jp/MediaLibrary/file/column/opinion/detail/20220725_tsujimoto.pdf

前向きな活動を後押しする自治体・市民等のデザインに対する理解

- 地域でデザインを活用したまちづくりや産業振興、地域コミュニティの活性化等を実施するには、**核となる自治体をはじめ、市民、組合、商工会、青年会議所などのデザインやデザイナーに対する理解の深化**が不可欠であり、これに資する各種取組が必要

自治体のデザインリテラシー向上に関する事例（神戸市・福井県・山形県・富山県ほか）

デザイン人材の雇用（兵庫県神戸市）



デザイン・クリエイティブの素養を持つ人材を外部委託ではなく市役所の職員として採用。

ユネスコ「デザイン都市・神戸」において、まち・くらし・ものづくりの三本柱で神戸市の魅力を高めるデザインに取り組む。

出所：これからのデザイン政策を考える研究会
第1回研究会 事務局資料より

政策デザインの導入（福井県）



杉本達治知事のもと、県民主役の県政の実現のため「政策オープンイノベーション」を展開。**創造性を重視する文脈の中で政策の質を高める「デザイン思考」に注目。**
政策課題を抱える担当課と県内デザイナーが協働し、県民目線に立った施策の検討を実施。予算編成方針にデザインの重要性を明記するほか、県庁内での研修や県内クリエイターとの協働体制の構築にも取り組む。

出所：これからのデザイン政策を考える研究会
第1回研究会 事務局資料より

デザイン振興指針の策定・改訂（山形県）



企業におけるデザイン力向上のための行政施策の基本的方向と具体的施策を示すものとして

2005年に策定（2012年改訂）

デザインとは、問題解決のために計画を立てている創意工夫する行為と捉え、**①経営者のデザインマインドの深化、②デザインスキルを持つ人材育成、③山形発オリジナルデザインの育成、④デザインに係る相談支援体制の充実**を目指す。

出所：これからのデザイン政策を考える研究会
第1回研究会 事務局資料より

地域のデザイン賞・デザインコンペの企画・運営 （富山県、広島県、茨城県、山形県、群馬県、静岡県、長崎県など）

NO IMAGE

各都道府県等で地域の企業等を対象に、デザインの有識者がもの・ことを選定・表彰。**企業やデザイナーにとっては創作のモチベーションに繋がるほか、新しいデザイン領域や表現、考え方を表彰を通じて社会に発信することで、次代のデザインのあり方を提示。**他方、市民に対して十分に賞が認知されていない・販路に直接繋がらないなどの課題を抱えている場合もある。

地域×デザインの促進／いまインタウンデザイナーが必要

- 複雑化する地域課題の解決に向けて、【地方公共団体】と【地域に密着してデザイン活動に取り組む“インタウンデザイナー”】の共創を促進するため、地方公共団体等が起こすべき行動やポイント等を整理。



目次

デザインがわかる、地域がかわる ～インタウンデザイナー活用ガイド～

はじめに	02
第1章 デザインで解決する地域の課題	04
01 本ガイドにおけるデザイン・デザイン人材・インタウンデザイナーの捉え方	05
02 地域課題の解決策としてのデザイン活用がもたらす効果	08
03 デザイン人材が得意なこと	12
第2章 地域とデザイン人材の関係づくり	13
01 自治体等とデザイン人材との関わり方の4類型・類型別のメリットデメリット	14
02 人材のシェアの重要性	17
03 二地域居住を活用したデザイン人材の受入れに関する対応策	18
第3章 自治体等のデザイン人材活用実践例	21
01 インタウンシップ受入支援事業 北海道釧路市	22
02 ユキノチカラプロジェクト 岩手県西和賀町	25
03 kitokito MARCHE 山形県新庄市	28
04 こおりやま街の学校 福島県郡山市	31
05 Igoku 福島県いわき市	34
06 クリエイティブ採用 千葉県市川市	37
07 平和モニュメント 神奈川県横浜須賀町	40
08 SUWAデザインプロジェクト 長野県諏訪市	43
09 富士見 森のオフィス/SEIMITSU FUJIMI 長野県富士見町	46
10 RENEW 福井県鯖江市	49
11 長浜カイコ 滋賀県長浜市	52
12 クリエイティブディレクター/デザイン・クリエイティブ枠 兵庫県神戸市	55
13 オフィスキャンパ 東京都奈良県東吉野村	59
14 観光PR媒体の作成 鳥取県南部町	62
15 「と、つくる」公益財団法人広島市産業振興センター	65
16 さがアグリヒーローズ 佐賀県	68
第4章 明日から実践！デザイン人材活用	71
01 自治体等がとるべき対応策	72
02 デザインの力を地域の活性化に繋げるための秘訣	76
付録	79
出所	82

東北は、全国をリード

- 地域に根差したデザイナーがいる・活動がある・視えている・つながっている

デザイン百姓
山形・吉野敏充
秋田・瀧谷和之
青森・佐々木遊
岩手・阿部拓也
宮城・横塚明日美
福島・高木市之助
山形・吉野敏充
秋田・瀧谷和之
青森・佐々木遊
岩手・阿部拓也
宮城・横塚明日美
福島・高木市之助

東北で、
デザインする
ということ。

2024.2.25.『東北デ。』トークショー
主権：経済産業省東北経済産業局
会場：東北スタンダードマーケット（株式会社 金入）× 瀧谷デザイン事務所

おせっかい事務所



福島 | 高木市之助

福島県いわき市小名浜生まれ。仙台デザイン専門学校卒業後に上京し、デザインとは関係のない仕事を渡り歩く。2010年に福島へ帰郷後は、かまぼこ製造会社にてかまぼこ職人に。その後2016年に意を決してかまぼこ職人からデザイナーに転身・フリーランスに。「ハッピーな未来につながるデザインをすること」がモットー。



宮城 | 横塚明日美

宮城県丸森町生まれ。広告制作会社に勤務後、フリーのデザイナーを経て2020年に丸森町でデザイン事務所「合同会社nekiwa」を設立。宮城県仙南地域を中心にデザイン制作からブランディング・企画など幅広く活動しながら、趣味では地域の写真を撮りため展示会や冊子などでもリリース。「あかるくかしこくたくましく」がモットー。



岩手 | 阿部拓也

秋田県生まれ。仙台の専門学校を卒業後、印刷会社を経て2018年に独立。2021年、岩手県遠野市に移住後、本職とは関係ない自身の移住生活を描いた漫画をSNSで投稿したり、地元の郷土芸能「しし踊り」の舞手になるなど、遠野のおもしろさにどっぷり浸かっている。2023年には岩手ADCグランプリを受賞。



青森 | 佐々木 遊

青森県八戸市生まれ。家族全員デザイナーの家庭に生まれ、「デザイナーにはなりたくない」と悩みながらも溢り溢りした青森でのデザイン。地元新聞社に入社後「東北のデザイン社」を社内分社クリエイティブディレクターに。現在は個人で「アソビ」を立ち上げ、地域の面白そうなおもしろい面白くなるよう奮闘中。

『東北デ。』トークショー

【第1部】13:20-15:10

山形 | 吉野敏充
宮城 | 横塚明日美
福島 | 高木市之助

【第2部】15:30-17:20

青森 | 佐々木遊
岩手 | 阿部拓也
福島 | 西山里佳

進行：瀧谷和之 | 秋田

岩井 巽（株式会社金入）



秋田 | 瀧谷和之

秋田県美郷町生まれ。宮城大学事業構想学部デザイン情報学科（建築専攻）卒業後、東京の広告代理店での勤務を経て、2009年に「瀧谷デザイン事務所」として独立。近年は「国語・算数・理科・デザイン!」という「教育×デザイン」をテーマとしたプロジェクトの活動にも力を入れている。劇団やったり、郷土玩具作ったり、様々なデザイン活動中。



山形 | 吉野敏充

山形県新庄市生まれ。東京デザイン専門学校卒業後、SOFT ON DEMAND、SOD artworksを経て吉野敏充デザイン事務所を設立。マルシェ「kitokitoMarche」、地域広域情報誌「季刊にゃー」、山形県の工芸品支援「山から福がおりてくる」、新庄の食プロジェクト「新庄いいにゃ風土」など「デザイン事務所」の範疇を超えた取組みを数々行っている。



福島 | 西山里佳

福島県双葉郡富岡町生まれ。東京にて音楽やアパレル・出版関連のデザイン業務に従事後、福島に帰郷。人々の豊かな生業を「表現すること」をお手伝いするため、2020年にmaruttiを法人化。2021年には南相馬市小高区に、地域にひらかれたデザイン事務所として、事務所兼アートスペース「粒粒」を開所。